

豊かな人間性が育つ総合的な学習の時間の試み

－高齢者との交流活動を通して－

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究目標	2
III	研究仮説	2
IV	研究の全体構想図	3
V	研究の内容	4
1	豊かな人間性	4
(1)	豊かな人間性	4
(2)	よりよい人間関係	4
(3)	高齢者との交流を通して	5
(4)	主題に迫るためのテーマと年間計画(案)	5
2	総合的な学習の時間	8
(1)	総合的な学習の時間の背景	8
(2)	総合的な学習の時間の趣旨	9
(3)	総合的な学習の時間のねらい	9
(4)	題材について	9
(5)	学習活動について	9
(6)	地域の特色	9
(7)	学習展開	9
(8)	教師の支援	10
(9)	評価	10
VI	授業実践	11
1	題材名「おじいさん、おばあさんからたくさん教わろう」	11
2	題材目標	11
3	題材設定の理由	11
4	指導計画	13
5	本時の指導	13
	資料・アンケート	16
6	授業実践の結果と考察	17
(1)	授業仮説①の検証	17
(2)	授業仮説②の検証	18
VII	研究の成果と今後の課題	20
1	成果	20
2	課題	20
3	おわりに	20
	《主な参考文献》	20

豊かな人間性が育つ総合的な学習の時間の試み ～ 高齢者との交流活動を通して ～

宜野湾市立宜野湾小学校 教諭 多和田 文子

I テーマ設定の理由

新学習指導要領（平成10年12月告示）は、改訂の基本方針として、児童に「生きる力」を育成することをねらいとし、①豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること。②自ら学び、自ら考える力。③ゆとりの中で、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育。④特色ある教育、特色ある学校づくりを掲げている。

この生きる力を育むことが極めて重要な役割を担う時間、ということで「総合的な学習の時間」が創設された。

子供たちの生活やそれを取り巻く現状においては、ゆとりのない忙しい生活、自立の遅れ、家庭や地域社会における人間関係の希薄化、社会性の不足からくる規範意識の低下、そして、社会全体のモラルの低下などが指摘されている。このような現状を考えたとき、特に、豊かな人間性や社会性の育成が大切だと考える。豊かな人間性や社会性は、どんなに社会が変化しようとも時代を超えて変わらない価値あるものである。

学級の児童の日頃の言動をみていると、安易に相手を傷つける言葉を浴びせたり、相手の意向などおかしなことに、自分のしたいように物事を進めたり決めたりしていることが目に付く。アンケートの結果や日記から放課後は、塾やお稽古ごと通いが多く、友達同士の自由な遊びの時間があまりない。又、祖父母と同居している児童は少なく、ほとんどの子が日頃は祖父母との交流がない。さらに自分の祖父母以外と気軽にあいさつや、話をしたことがある児童は少ない。

これまで、「他の人に対する思いやりの心を育てること」を重点に学級経営を心がけてきたが、日頃の児童の言動から不十分さを痛感する。他者を尊重する態度や尊敬する気持ち、他人をいたわり思いやる心や共に生きていくという考え方などを育むことは極めて大切である。

高齢者は、長い人生経験の中で、子育てを含め、人間として生きていくための知恵を培ってきており、幼少年期を生きる者たちにとって学ぶところは多く、高齢者との交流は、極めて意義のあることである。また、地域や学校の実態に応じ、自ら課題を見付け、よりよく問題を解決し、自己の生き方を考えることができる学習活動として、地域の高齢者との交流の機会を設けることは適切だと考える。

そこで、「総合的な学習の時間」を通して、地域の高齢者と交流を深め、よりよい人間関係を培わせたい。よりよい人間関係を培う中で自分や他者を大切に、いたわり思いやる心等豊かな人間性が育ち、生きる力につながるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

豊かな人間性を育てるために、高齢者との交流活動を通して、自分と他者との関わりを深め、よりよい人間関係を培うことができる支援のあり方を、実践的に検証する。

III 研究仮説

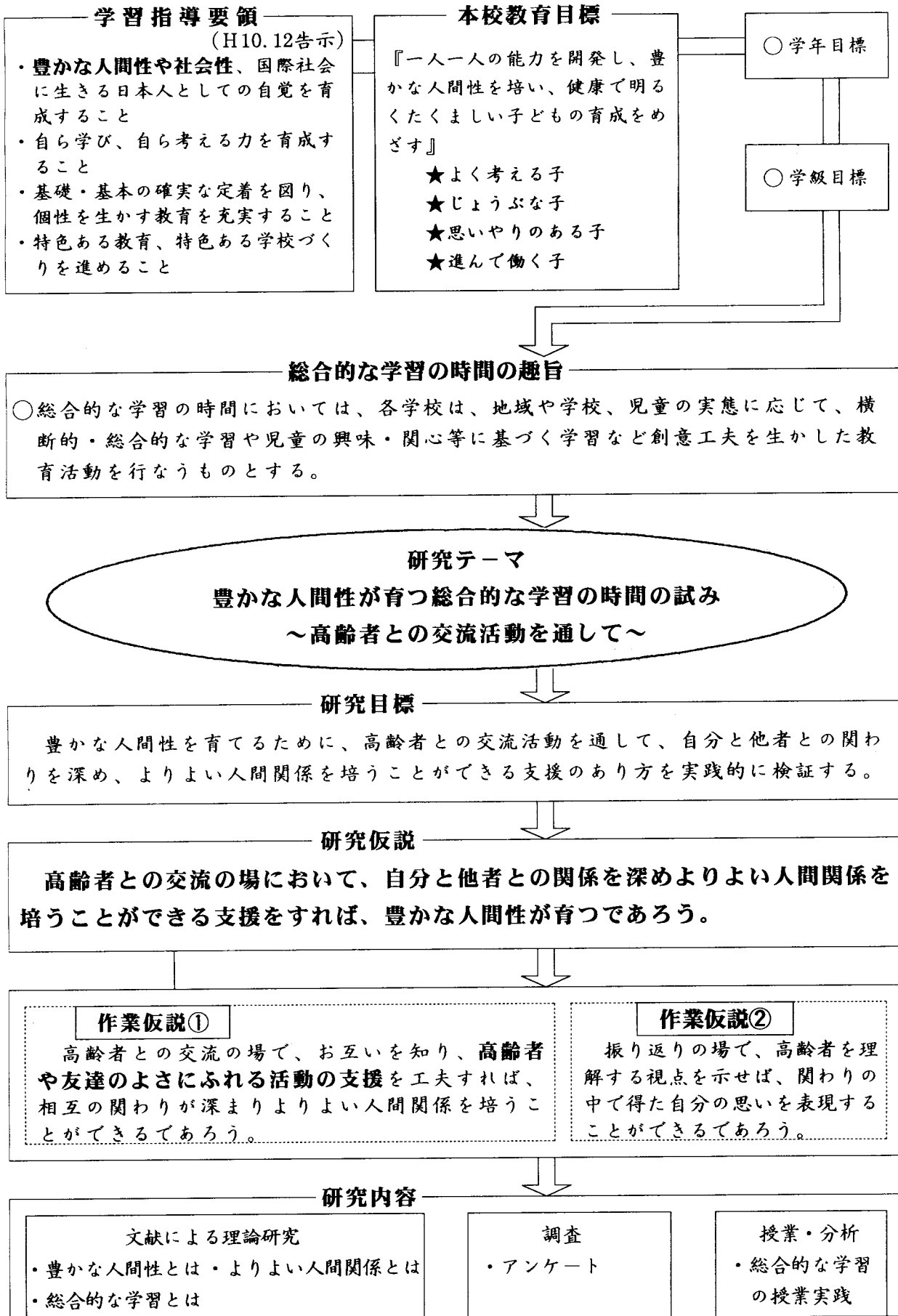
1 基本仮説

高齢者との交流の場において、自分と他者との関係を深めよりよい人間関係を培うことができる支援をすれば、豊かな人間性が育つであろう。

2 作業仮説

- (1) 高齢者との交流の場で、お互いを知り、高齢者や友達のよさにふれる活動の支援を工夫すれば、相互の関わりが深まりよりよい人間関係を培うことができるであろう。
- (2) 振り返りの場で、高齢者を理解する視点を示せば、関わりの中で得た自分の思いを表現することができるであろう。

IV 研究の全体構想図



V 研究の内容

1 豊かな人間性

(1) 豊かな人間性

「人間性」とは、一般に「人間としての本性、人間らしさ」（広辞苑、第4版）と説明されている。

「豊か」とはいったいどのような人間の状態をいうのか。

第15期中央教育審議会第一次答申の内容から、「豊かな人間性」に関わりのある言を次の様に抽出することができる。

- ・自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心等
- ・理性的な判断力や合理的な精神、美しいものや自然に感動する心といった柔らかな感性
- ・よい行いに感銘し、間違った行いを憎むといった正義感や公正さを重んじる心や実践的な態度、生命や人権を尊重する心、ボランティアなどの社会貢献の精神
- ・望ましい人間関係の形成や社会生活上のルール of 習得などの社会性、社会の基本的なモラルなどの倫理観
- ・人間としての生き方や在り方、勤労観や職業観など、人としての心や生き方に直結しているさまざまな内容を含んでいる。

上記の文言から、豊かな人間性をとらえるが、自らを律しつつ、他人と共に協調し、他人を思いやる心や感動する心等特に重要であると考えられる。

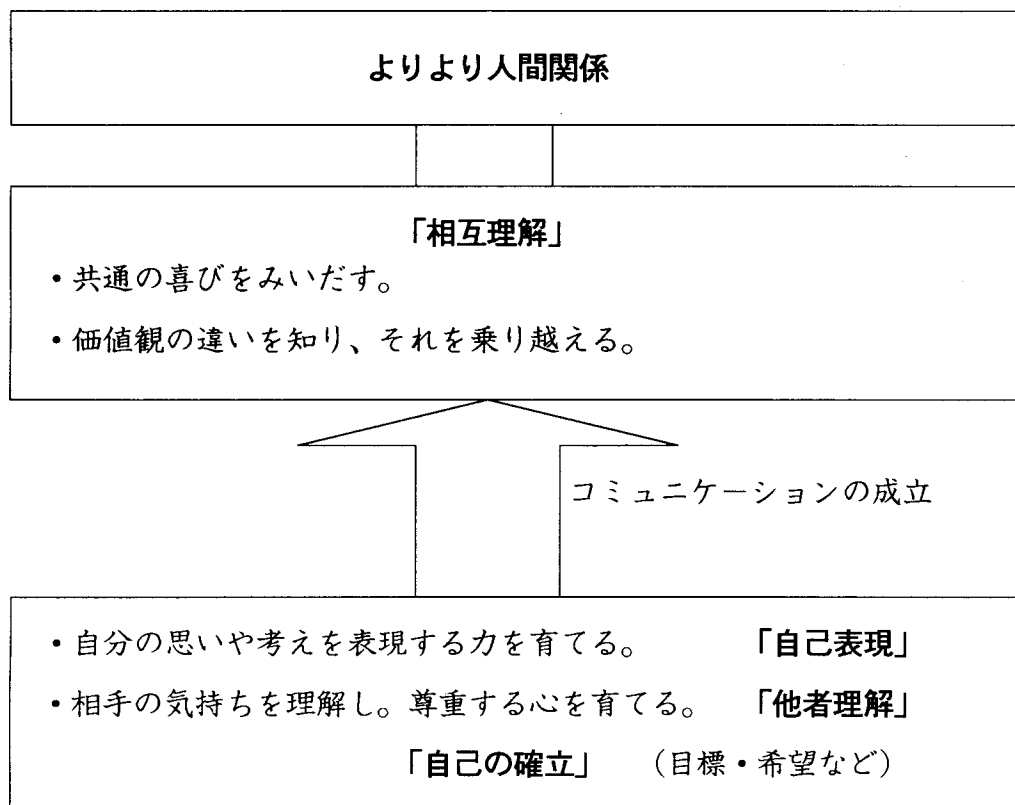
(2) よりよい人間関係

子供たち一人一人に目を向け、その子の持っているよさや可能性を見付け伸ばしたい。又、自分自身で課題を見付け、問題を解決しようとする子を育てたいと考えたとき、その解決すべき問題は、個人の問題だけにとどまらず、他者と深い関わりを持っているものである。解決にあたっては、当然のことながら個人における自力解決も重要であるが、他者と思いや考えを出し合い話し合い、共に行動する等によって解決していくことが、個々の切り拓く力をさらに伸ばしていくことになるであろう。関わり合い、よりよい人間関係を培う中で、自らを律しつつ、他人と共に協調し、他人を思いやる心や感動する心等育っていくであろう。

では、よりよい人間関係とはどのような関係を言うのだろうか。

まず土台に「**自己の確立**」があると考えられる。自分自身の目標なり考えを明確に持っていないと、他者との交流は考えにくいからである。この「自己確立」の上に「自己表現」と「他者理解」がある。自分の見方や考え方を表現し伝えようとするのが「**自己表現**」であり、相手の見方や考え方を知り、尊重し理解しようとするのが「**他者理解**」である。

これらを柱とした上に「**相互理解**」が成り立つ。「相互理解」とは、互いに共通の喜びを見いだしたり、価値観の違いを知り、それを乗り越えた状態を指すものと考えられる。この相互理解こそが、よりよい人間関係につながるものである。



(京都教育大学付属桃山小学校より)

(3) 高齢者との交流を通して

「よりよい人間関係」を培うためには「自己の確立」「自己表現」「他者理解」が大切と考えるが、この中で、「他者理解」が子供たちに最も欠けているのではないだろうか。長い人生経験の中で、子育てを含め、人間として生きていくための様々な知恵を培ってきている、一番身近な祖父母との日頃の交流のなさ、高齢化が急速に進展し、少子化の進行もあいまって、少子高齢社会が現実のものとなっていること等を考えたとき、これからの社会を生きていく児童に、その発達段階に応じて、少子高齢社会についての理解を深め、交流し、触れ合う活動や、福祉に関するボランティア活動等を体験させ、他者理解を図り、他人を思いやる気持ちや共に生きていくという考え方を育むことは極めて大切である。

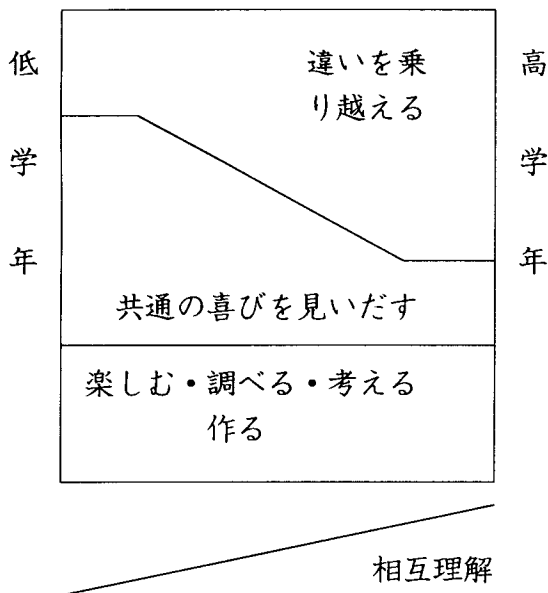
しかし、4年生の児童は、他者の気持ちを考えるよりも、むしろ自分の気持ちを分かってもらえるのが当然と考えるような年齢である。

高齢者との交流等、経験を積み重ねながら、「他者理解」「相互理解」を学んでいくのであろうと考える。

(4) 主題に迫るためのテーマと年間計画 (案)

① 主題に迫るためのテーマ

研究主題に迫るためのテーマを学年ごとに設定してみた。低学年ほど「共通の喜びを見いだす」割合が多くなるであろうし、徐々に高学年になるにつれ「価値観の違いを知りそれを乗り越える」割合が増えていくであろう。また、相互理解の度合いも深まっていくものとする。



低学年は楽しむことを、中学年は作ったり調べたりすることを、そして高学年は考えることを中心に、学年の学習内容・発達段階も考えあわせて次のように設定した。

(生活科)

(総合的な学習)

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
テーマ	遊び	暮らし	環境	福祉	情報	国際理解

<各学年のめざす子供像>

- 1年：「遊び」に夢中になれる子
(だれとでも仲良く遊んだり、活動したりできる。)
- 2年：「暮らしの中」で仲間とともに楽しむ子
(祭り、伝承遊び等、暮らしの中にある楽しさを体験したり表現したりすることをおして、よりよい人間関係を培う。)
- 3年：「環境」(自然)とふれあう活動を通して、互いを認め、助け合う子
(理科の学習に関連した自分が作った課題を、友達と協力しながら追求し、よりよい人間関係を培う。)
- 4年：「福祉」を追求する活動を通して、互いに助け合い共に生きていける子
(人の関わり大切さ、福祉の大切さを学び、自分たちにできることを実践し、よりよい人間関係を培う。)
- 5年：「情報」をもとに人と自然が共に生きる視点に立ち、共に学ぶ子
(情報を収集する力やその価値を判断する力、多くの情報を比較・検討し自分の生活をよりどころにしながら地球的・地域的な環境問題の実態つかむ。)
- 6年：「国際理解と自分づくり」自分の目標、課題を見つけて取り組む子
(今の自分や自分の生活を見つめ、周囲の仲間の生活と比べていく学習の中で、さらに目を外国の子供たちの生活にも向けていき、自分自身をたかめ仲間とよりよい人間関係を培う。)

② 年間計画

4年 「福祉」 (1～3年、5～6年は略)

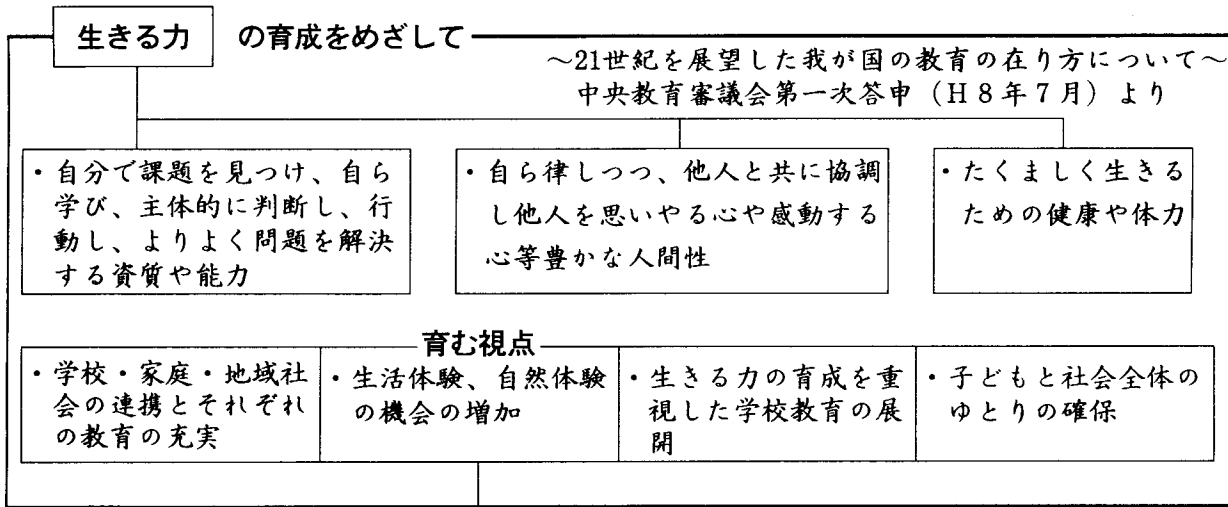
●めざす子ども像

一人一人が自分の考えを持ち互いに助け合って共に生きる子の育成

一 学 期 (7)	<div data-bbox="245 389 1027 497" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">人とのかかわりの大切さを知る</div> <p>「高齢者との交流①ーグランドゴルフ大会」</p> <p>「高齢者との交流②ーおじいさん・おばあさんからたくさん教わろう」</p>
二 学 期 (4)	<div data-bbox="245 819 1027 927" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">福祉の大切さを学ぶ</div> <p>「福祉調べ発表会」(リサイクルと福祉)</p> <p>福祉を身近に感じる</p>
三 学 期 (4)	<div data-bbox="245 1196 1027 1303" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">自分たちでできることを実践する</div> <p>「福祉と社会」</p> <p>公園の掃除(まつぼっくり公園)</p> <p>一年間の取り組みをまとめる</p>

2 総合的な学習の時間

(1) 総合的な学習の時間の背景（教育課程に位置づくまで）



総合的な学習の時間(仮称)を創設

教育課程審議会中間まとめ（H9年11月）より

学校の創意工夫

児童生徒の興味関心

横断的・総合的な学習を推進

【ねらい】

生きる力の育成

- ・自ら課題を見つけ、よりよく課題を追求する資質や能力の育成
- ・課題解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度の育成

- ・学び方や物の考え方の習得重視

- ・各教科、道徳、特別活動で身につけられる知識や技能を児童の中で総合化する

学校が創意工夫して展開

- ・体験的な学習重視

- ・学習時間の弾力化

- ・多様な学習形態

- ・指導体制の工夫

- ・地域の豊かな教材、環境活用

教育課程基準の改善について

教育課程審議会答申（H10年7月）より

【改善のねらい】

①豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成する

②自ら学び、自ら考える力を育成する。

③ゆとりある教育活動を展開する中で、基礎・基本の確実な定着を図り個性を生かす教育を充実すること

④各学年が創意工夫を生かし特色ある教育、特色ある学校づくりを進めること

教育課程に「総合的な学習の時間」を創設
「生きる力」を育むために極めて重要な役割

(2) 総合的な学習の時間の趣旨

- ・特色ある教育活動の展開
- ・「生きる力」を育成するため
- ・教科の枠を越え横断的・総合的な学習の実施

(3) 総合的な学習の時間のねらい

- ・自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力。
- ・学び方やものの考えかたを身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。

2 (4) 題材について

子どもたちが地域の高齢者に接し、昔の生活の様子を聞く、遊具を一緒に作る、遊ぶ等の活動を通して、その人間性に触れていく。そして、その人々の温かさやその生きざまを通して、今生きている自分たちをふりかえらせたい。

(5) 学習活動について

体験活動

子どもたちが人の気持ちにせまるための一つの方法として、体験活動が考えられる。その体験活動には、実際に物を作ったり、遊んだり、話し合いをしたりする中で、実感的にその人の心情にせまっていく。

(6) 地域の特徴

今回は、学校を中心にして広がる校区を対象にした。

宜野湾小学校校区は、2つの行政区があり、人口は、男約5,000人、女5,500人である。住宅や商店の多い地域であり、野菜作りや花卉栽培等農業も所々みられる。また、近くには、2つの児童公園、児童センター、愛育園、老人福祉センター、社会福祉センター、特別養護老人ホーム福寿園、デイ・サービスセンター福寿園、障害を持っている人も働いている会社、車椅子を販売している会社等がある。

福祉・健康についての学習課題をみつけやすい校区といえる。

(7) 学習展開

よりよい人間関係を培うためには、子どもたち自身が問題意識を持つことは、たいへん大切なことである。福祉の学習では、他人事ではなく、自分自身の問題として受け止めることが共生に直接つながっていくからである。子どもが持つ学習問題から出発することが重要である。

それぞれの子どもたちの問題意識から学習をスタートさせることが、子どもの考えや判断力をのばすことにつながるのである。そういった、問題意識や考え、判断力を養うためには、問題解決的な学習が必要であると考えられる。

○問題解決的な学習の流れ

事実提示 (イナゴとつな引き。)

↓ 生み出す

問題発見 (高齢者と交流したいな。)

↓

学習問題成立 (グランドゴルフをしたいな、お話を聞きたいな。)

↓

予想を立てる (同じ思い、考えのグループで計画を立てる。考えを深める。)

↓ 挑む

学習問題の確かめ (他の人の考え・意見を尊重しあう。他者との交流。)

ふりかえる・生かす

(8) 教師の支援

教師の発問の工夫

人の心情にせまる発問として大切にしていきたいのは、「自分だったらどうするだろう?」ということである。他人事ではなく、自分の立場におきかえて考えることは、福祉学習では重要である。また、よさを見付けさせる手だてとして、その人のよさ、高齢者を理解する視点等をあたえ、気づかせる等も大切だと考える。

(9) 評価

① 評価の考え方

- 絶対評価の採用 …… 他の子どもと比べる必然性は全くない。
- 学習過程の評価 …… 学習している過程でみられる、その子のよさや進歩の状況を評価

② 評価の基本

- 計画カードに交流活動の計画を立てることができたか
 - 交流体験活動で、他者のよさを見付けることができたか。相対評価をしない。
 - ふりかえりカードに自分なりの感想が書けたか。
- 以上の観点で評価する。

4年3組 名前(M・K) おじいさん、おばあさんからたくさん教わろう
テーマ(方言について) ●めあて おじいさんにして話をちゃんと聞く グループでおじいさん、おばあさんに聞きたいこと
1「ありがとう」は、なんていうの?(ヘーデービル) 2「あやめなさい」は、なんていうの?(クイミソレー) 3「おはよう」は、なんていうの?(ウキミジエビ)ー) 4大好きなこと(シチョウミー) 5「きらいな物」は、なんていうの?(シカソ) 6先生のこと?(シーン) 7友だちのこと?(ルシクワー)
グループメンバー表
金丸 みな
大城 ゆか
多和田 めぐみ
研川 としき
許田 よしき
松村 れいほ
自分のことをしょうかいしよう。(じこしょうかい) わたしは、金丸みなです。 とくいなきょかは、エ図です。 すきなことは、えをかくことです。 ようしくおねがいます。

あじさつこのことば
3. よろしくおねがいます。
2. ほくたさ、私たちが方言のことばを教えるべきです。
1. 四年三組へようこそいらっしゃいました。

メモ 8. なかよしてなんていうの?(ルシクワー) 9. しずかにするってなんていうの?(アミ) 10. 弟(ウん) 11. なまえ(ノージ) 18. きゅうり(キーウイ) 12. 兄、女中は(シトジャ) 19. たべる(カムン) 13. かかい(キョカギ) 20. 方言(ウチナーザチ) 14. おじいちゃん(おじー) 21 15. おはあちゃん(おはー) 22 16. ひおじいちゃん(ワンマー) 17. ひおはあちゃん(ワンマー)
19 ★★★今日の学習をふりかえって (0をつけてね)
1 楽しかったですか (はい) どちらでもない いいえ
2 自分から計画を立てることができましたか (はい) どちらでもない いいえ
3 自分から進んで交流することができましたか (はい) どちらでもない いいえ
4 「あっ、わかった・そうか」と (はい) どちらでもない 思ったことがありましたか いいえ ・ほうげんがよくわかった。でもおすかしいな。

VI 授業実践

第4学年 総合的な学習の時間の（試み）活動指導案

平成11年6月30日（水）2校時

宜野湾小学校 4年3組 男18名 女20名 計38名

授業者 多和田 文子

1 題材名 おじいさん・おばあさんからたくさん教わろう ―福祉・健康―

2 題材目標

- (1) 地域の高齢者の方との交流をすることによって、福祉についての関心や理解を深める。
- (2) 高齢者との触れ合いを通して、高齢者の豊富な体験や知恵を知り、感謝の心を持ち、生き方を学ぶ。
- (3) 高齢者の方から教えていただいたことを生かして、自分で発展させたり活動したりすることができる。

3 題材設定の理由

(1) 題材について

子供にとって自分の生まれ育っている地域は、身近で、知恵と生き方を学べる絶好の場である。多くの様々な関わりの中で、地域の中で生きること誇りを持ち、地域を大切にすることが育つものであるといわれている。

本学級の児童は、ほとんどの祖父母が健在であり、一緒に楽しく過ごしているが、同居している児童は2名であり、日頃は交流が少ない。

アンケート結果から、祖父母について抱えていることは、殆どがわからないことを聞くと優しく教えてくれる。いろいろなことを知っている。何かを作ったり、書いたりするのが上手である。一緒に何かの活動をしたかと思っている。等である。

この様に思っているものの、その思いに止まっていて、豊かな経験を持ち、尊敬できる人物としての「すごさ」を意識している子は少ない。

このような中で、子供たちが人間的な触れ合いを深め、生き方を直接に感じることができるのは、豊かな経験と、知識を有する地域に住んでいる祖父母・高齢者との交流であろうと考える。

そこで、地域に住む高齢者との交流を通して、自然環境の変化や自然とどうかかわってきたかを、高齢者の知恵から学ぼうと考え、題材を「おじいさん・おばあさんからたくさん教わろう」とした。具体的には、高齢者と共に昔の暮らしや遊び、遊具などについて聞いたり作ったりする事によって地域の一員としての自覚や他人を思いやる優しい心が育つのではないかと考え、本題材を設定した。

(2) 活動における主な手だて

- ① 子供たちが学習課題について調べ、解決していく過程で、他者との関わり（コミュニケーション）の場を通して、自分の考えを見つめ直し、よりよく問題できるように支援する。
- ② 高齢者とのふれあいの場として学級集会を開催するが、児童の興味ほんいだけの集会活動とはならない様に、題材の意義を考えさせ、高齢者とともに楽しく過ごせる時間としての集会活動になるように配慮する。

(3) 関連的指導の位置付け

- 国語科……「メモを生かして」「ニュースの時間です」「グループ新聞作り」
- 社会科……「くらしのなかのごみと水」「くらしを高めるねがい」「くらしのひろがり」
- 道徳……親切、尊敬と感謝、家族愛、思いやりに関する主題における指導
- 特別活動…学級活動における集会活動

(4) 指導の力点

- ① 自分らしいテーマを決めて、学習の見通しを持つ。

生 み 出 す	これまでの学習からめあてを持たせ、「書く・話す」「調べる」「作る」の3つの視点を参考にさせることで、子供たちの発想や、構想を図りやすくする。学級で柔軟なグループ構成をし、学習集団を活性化させる。
------------------	---

- ② それぞれの方法（グループ）で学習を進める。

挑 む	T・Tによる共感と支援によって、課題の具体的化を図る。多様な活動の方法を児童と共に考え、地域の人々の協力を得つつ学習する。
--------	---

- ③ 自分たちなりの方法で発表する。

生 か す	発表の場を持つことによって、学びあいの場を広げ、その子なりに活動の思いが温められる様にする。 表現の喜びを味わわせる。
-------------	--

4 指導計画 (7時間)

	学習活動と子供の姿	教師の働きかけ
第一次 (1)	<p>1. 沖縄昔話を聞く。(イナゴとつな引き)</p> <p>○おじさん、おばあさんはすごいな。</p> <p>○一緒に何かしたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昔話「イナゴとつなひき」を読み聞かせて、おじいさん、おばあさんと交流をしたいなという意欲を持たせる。 ・おじいさん、おばあさんと一緒に楽しめるゲームを考える。 ・長寿会との連携を図り、手軽にできるゲームができるように支援する。
第二次 (5)	<p>2. グランドゴルフ大会をしよう。</p> <p>○計画を立てよう。</p> <p>○グランドゴルフを一緒にしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒にグランドゴルフをしながら、グランドゴルフを教えてもらうようにする。
本時	<p>3. おじいさん、おばあさんから、たくさん教わろう。</p> <p>○計画を立てよう。</p> <p>○交流会をしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昔のお話を聞きたいなという意欲を持たせる。(ゲーム大会より) ・テーマを決め、テーマグループごとに、聞きたいことを整理させる。 ・一人一人がめあてを持ちながら、テーマグループごとに交流させる。
第三次 (1)	<p>4. おじいさん、おばあさんから、教えてもらったことの発表会とお礼の手紙を書こう。</p> <p>お礼の手紙を書こう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに発表会の準備をする。 ・お礼の方法はグループにまかせる。



5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・高齢者との交流を通して、相手の気持ちを理解し尊重する心を育てる。
(他者理解、相互理解)
- ・自分の思いや考えを生き生きと表現する力を育てる。(自己表現)

(2) 授業仮説

- ・地域の高齢者との交流の場で、高齢者や友達のよさにふれる活動の支援を工夫すれば、児童相互、高齢者との関わりが深まるであろう。
- ・ふりかえりの場で、高齢者を見る視点を示せば、高齢者を理解し、関わりの中で得た自分の思いを表現することができるであろう。

(3) 本時の展開 (6/7)

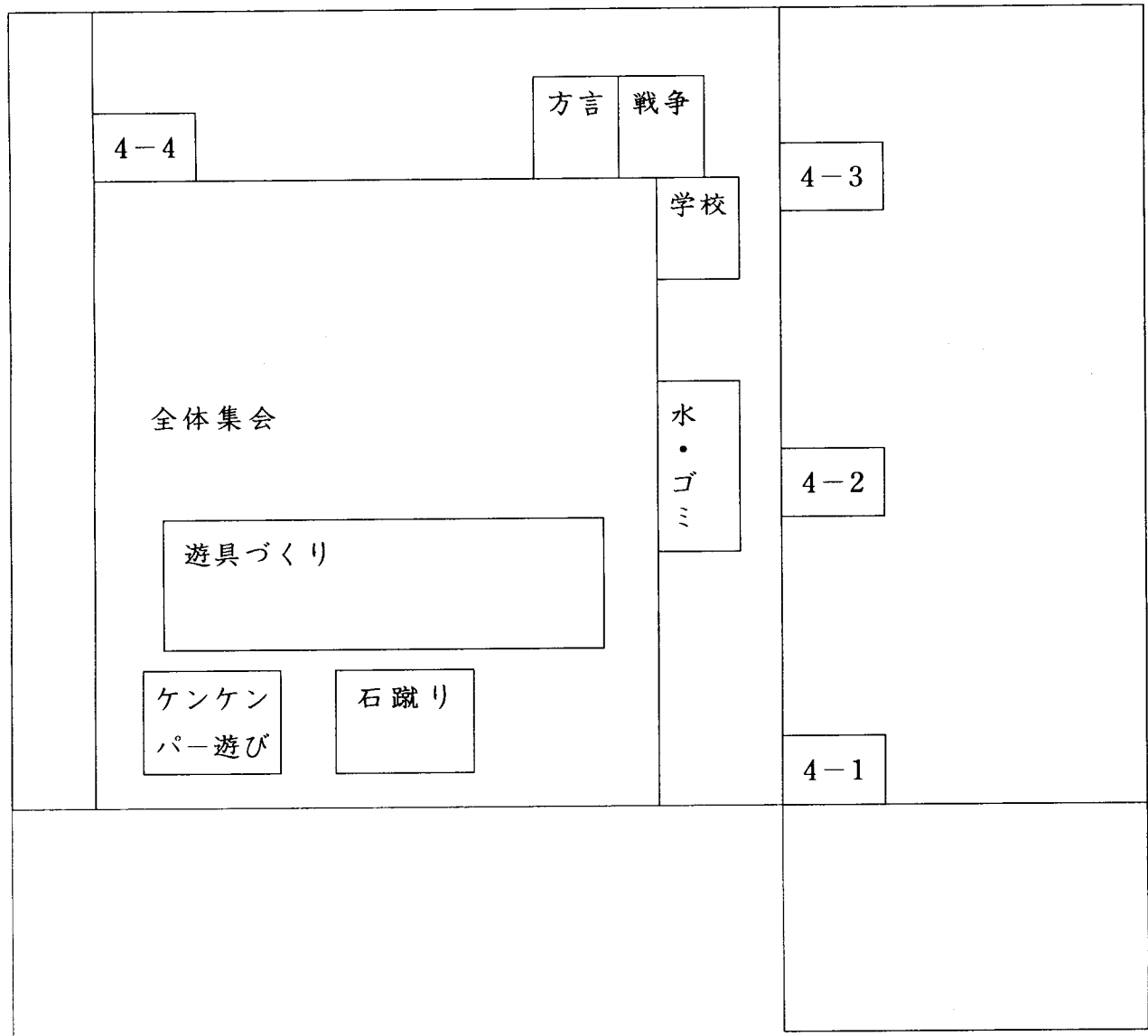
	学習活動及び内容	教師の支援・評価
生 み 出 す (5分)	1. 歓迎のあいさつ・歌を歌う (安里屋ユンタ) 2. 今日の活動の目当てを確かめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">おじいさん、おばあさんから たくさん教わろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の想起 ・本時の活動の見通し 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気よく気持ちを込めて歌うように配慮する。 ・本時の活動意欲や活動内容に結びつく様に、子供たちの中に入って、共通性や話題を提供する。 ◆めあてがしっかりもてたか
挑 む (30分)	3. 一人一人が目当てをもちながら、テーマに分かれ、活動する。 *自己紹介をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・あ生活(飲料水、ごみ等)は、どんなふうにしていたのかな ・学校は今とどうちがうのかな ・どんな遊びをしていたのかな ・戦争も体験したのかな ・方言について知りたいな 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの考えたルールや場の工夫によって、お互いに楽しく交流できる様に支援する。(関心・意欲・態度) ・前時で考えた楽しい自己紹介の方法で取り組ませる。 ・友達に頼らず、その子なりの表現方法で教えてもらうようにする。 ・自分にとって大切なことは、メモをとるように働きかける。
ふ り か え る (10分)	4. 今日の活動をふりかえる。 <ul style="list-style-type: none"> ・今日教えてもらってわかったこと、感じたことや考えたこと等を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の活動に意欲がもてるように、一人一人のふりかえりを称賛する。



10 分	<p>5. 次時のめあてを持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • わかったことや感じたことなど、お礼の言葉を含めて発表させる。 ◆ 自分の聞きたいことをしっかり聞くことができたか。(思考力・判断) ◆ 楽しく交流できたか。(関心・意欲・態度) • 活動したことの発表会へ向けさせる。
---------	----------------------	---

(4) 評価

- ★めあてを持って問題を解決できたか。
- ★相手の気持ちを考えながら、楽しく交流できたか。
- ★自分の思いや考えを進んで発表できたか。



1 あなたの家族は、何人ですか（お父さん、おかあさん、などと書いてね。）

2人……………1 6人……………3
3人……………1 7人……………2
4人……………15
5人……………14

*4～5人かぞくが多い

2 自分のおじいさん、おばあさんと気軽にお話をできますか。

はい……………36
いいえ……………0

2-② おうちの近くのおじいさん、おばあさんとあいさつや、気軽に話をしますか。

はい……………9
いいえ……………27

*全員が自分のおじいさん、おばあさんとは気軽に話ができるが、他（顔見知り）のおじいさん、おばあさんには、えんりょがある。

3 おじいさん、おばあさんから教えてもらいたいことは、どんなことですか。

グランドゴルフ……………7人
ゲートボール……………2人
やきゅうやサッカー……………9人
あみもの……………2人
ゲーム……………5人
本を読んでもらいたい……………2人
その他……………9人

*グランドゴルフをおじいさん、おばあさんがよくやる事を知っている。

4 おじいさん、おばあさんについて、あなたの思っていることを書いてね。

わからないことをきくと、やさしくおしえてくれる。……………20人
いろいろなことを知っている。……………19人
何かを作ったり、書いたりするのが上手である。……………18人
一緒に遊びたいな。……………16人
やさしい……………30人

*おじいさん、おばあさんはすごいな、やさしいなと思っている。

5 おうちに帰ったら、どんなふうに過ごしていますか。

テレビやゲームをしている。……………21人 その他……………3人
ピアノ……………2人
友達と遊ぶ……………8人
漫画、本を読む。……………3人
ペットと遊ぶ……………2人
バスケ、サッカー、野球をする。……………8人

*殆どがテレビをみたり、ゲームをしたりしている。友達と遊ぶ子も殆どがゲームである。

6 授業実践の結果と考察

(1) 授業仮説①の検証

○ 手だて〈高齢者や友達のよさにふれる活動の支援〉

五つのグループ（戦争、方言、遊び、遊具づくり、水やゴミなどの生活）の交流を通して、児童の発表や教師の言葉がけから、**お互いの関わりが深まったか**を検証する。

C：きょうの日をぼくは、楽しみにしていました。さいしょにかんげいのことばをいうとき、きんちょうして、まちがえました。

T：誰だって緊張して間違えることはあるよ。みんなの前で大きな声でよく言えたね。すごいよ。

C：戦争の話をしているおばあさんは、すこしなきそうになっていた。戦争のこわさがわかった。

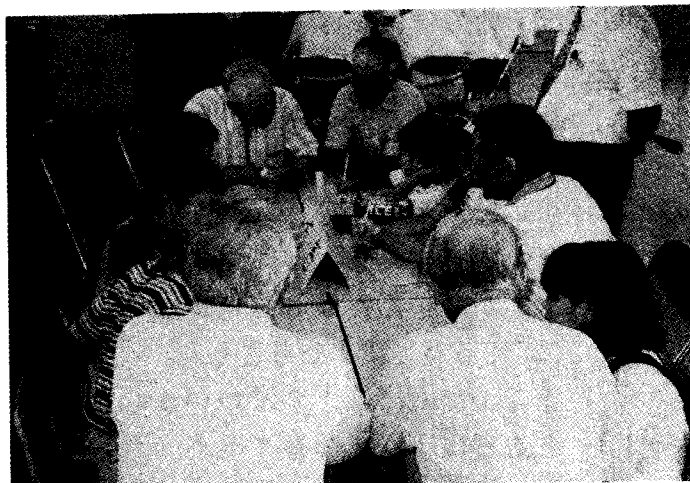
C：ぼくは、とても年とったおじいさんが「耳があまり聞こえない」といったので、おおきなこえではなしました。

T：相手のこと、よく考えてえらいよ。

C：きょうは、ぼくがたのしみにしていた交流会でした。おじいさんやおばあさんといっしょに楽しみながら、いっしょにハブグァーを作っていました。ちょっとむずかしいところは、おばあさんになりました。

T：Cは、だまったまま座り込んでいたので、おばあさんに「ここは、どんなして作るの」と聞いてごらんと声かけをした。

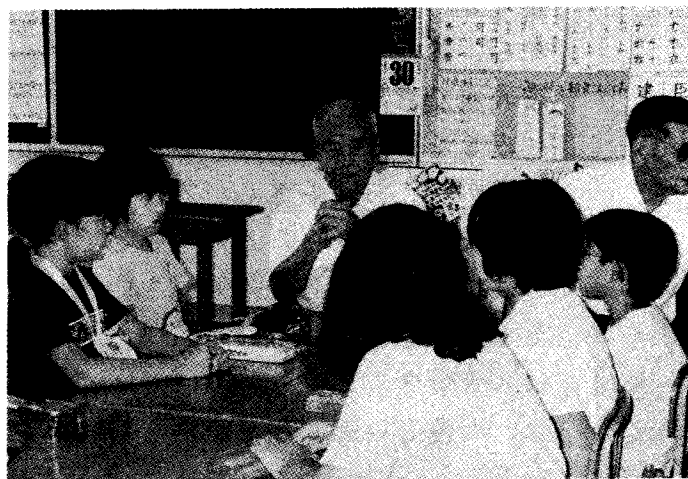
C：昔は、自分たちで野菜やいもをついていたそうです。自分たちで作った野菜を那覇まで裸足で歩いて売りにいったそうです。風邪をひいたら、火に頭をつけて、膨れているところは、針で刺して血をだしたそうです。



○ 方言を習う



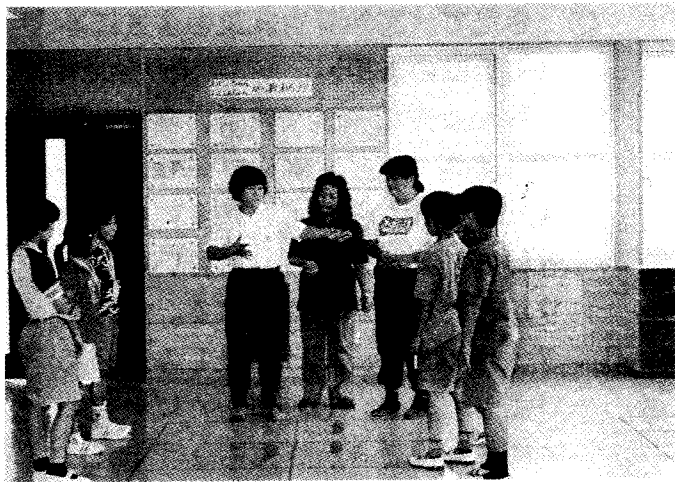
○ ハブグァーを作る



○ 戦争の話を聞く

むかしは、いろいろなくふうをして
くらしていることがわかりました。

C: ぼくたちは、おばあさんたちといっ
しょにケンケンパー遊びをしました。
さいしょは、しょうたろう君がやり
ました。ぼくは、とてもかんたんそ
うと思いましたが、しょうたろう君
がしょっちゅうしっぱいするので、
むずかしいんだなと思いました。次
に、しょうご君がやりました。「し
ょうご、がんばれよ」といいました。
こんどは、ぼくの番でした。ちょ
とむずかしかったけど、とても楽し
かったです。



○ ケンケンパー遊び

<考察>

最初はドキドキしていたが、祖父母と同居している児童は、自分のおじいさん、お
ばあさんのことを知っているということで、親しみを覚え会話がはずんでいた。顔見
知りというのは、心をリラックスさせるのに重要な一因だなと感じた。

戦争の時の大変さ、一日の生活のリズム、風邪をひいたときの工夫など高齢者の生
活の様子や知恵等、相手を知ることができた。また、耳が遠い高齢者には耳もとで大
きな声で、ゆっくり話をする子、ふだんは、元気でじっとしてられないような子が、
一生懸命話をする高齢者の顔をみつめて耳を傾けていた。自然に相手に合わせて話し
方、聞き方を工夫したのである。

耳の遠い高齢者のために大きな声で話したこと、友達が遊びの中で何回も失敗した
ので、「がんばれよ」と声かけしたことなど、よさがあらわれており、お互いの関わり
が深まったのではないか。

○ 方言を習う

(2) 授業仮説②の検証

○ 手だて<高齢者を理解する視点を
与える>

から、関わりの中で得た自分の思い
を表現できたかを検証する。

方言を習っての感想、遊んだ後の
感想から、おばあさんが方言を優し
く教えてくださったということで、
おばあさんの優しさの気づき、さ
っそく方言を覚え、自分のおばあさん
に「大好き」といってあげたいとい
う、心優しい面、などがあらわれて
いる。

Handwritten notes with decorative borders of stars and drawings. The text reads:

おじいさん、おばあさんとの交流会の感想を書こう。
4月 日、月曜日
私はさいしょドキドキしていたけどおじいさんといっしょにいる
ととんとんなれてきて、方言も教えてもらってうれしかったよ。
そして教えてくれる人もいっぱいいたので、ちかくのおじいさ
んに聞いておじいさんはとてもやさしく教えてくれた。さて
よくわかりました。たとえば、さらいは「かん」好きは
「しなうみ」といって教えてくれて、じょうたんなんかも
いて、すぐあかるくなりました。でも聞きたいことが
聞けなかつたのでした。しかたで、あ
おばあさんおとうさんに一緒に方言を使っ
てみたくていいです。それか方言を早くおぼえてお
は直ちゃんにも方言で大好き。いってあげたいです。

○ 仲良くできたよ

おじいさんやおばあさんと一緒に遊び、仲良くできるか心配しているが、ゆっくりとわかりやすく話してくれるおじいさんたちの親切を感じ、とてもうれしく交流できたことがわかる。

また、前回の交流で、グランドゴルフ大会をやった時に、ホールインワン賞を取り、その時のほうびとして、賞状と図書券をもらった。本人は、とても喜んで、またいっしょにやりたいと、笑顔で話していた。

おじいさん、おばあさんとの交流会の感想を書こう。
4の3 s.k
今日は、ぼくが楽しみにしていた交流会でした。最初は仲よくできるか心配でしたが、いっしょに楽しみながら遊べました。
おじいさんや、おばあさんは、あんなに優しく話している人も、手や顔はしわがありました。早くは、走ればいっせうです。ころは、ないよろにいつも気をつけているいっせうです。
やさしく、親切に話してもらえたので、とてもうれしかったです。後、ホールインワンの賞状と図書券をもらいました。
またおじいちゃんたちと遊びたいです。

○ 石けり遊び

T：おじいさん、おばあさんたちの顔や手や体の様子、教えてもらったこと、これからの願い、等交流の場面を思い出させた。

T：体力的にもこれからどんどんおとろえていくおじいさん、おばあさんたちに、自分ができることはないかなと質問した。

おじいさん、おばあさんとの交流会の感想を書こう。
4の3 名前 Y.T
今日私たちはおじいさんと、おばあさんと交流会をしました。
私はおもちゃで遊ぶのが好きにやりました。
いしけりではとてもむずかしいからたです。何回やってもゴールにはいきませんでした。
とてもくやしからたです。
さいごにおじいさんのしゃみせんを聞きました。安里屋ユンタも聞きました。とても楽しからたです。

<考察>

高齢者から教えてもらったことをさっそく実行し、自分のおばあさんに「大好き」といってあげたいというその子のよさや、高齢者の親切を感じ交流が楽しくできたこと等、高齢者や友達のよさに気づいたことがわかる。楽しかったことや、高齢者の体つき、願い、はじめてわかったこと、困ったこと等をふりかえりカードに記入させることで、どの子も自分の思いを書くことができた。特に書けない子には、高齢者と自分のからだを比べて感じたことはなかったかなど、質問形式で分かったことを書かせた。

これから自分にできることはないかなど、問いかけたら、すぐにやさしくするとの返事が返ってきたが、「どんなふうにやさしくするの。」と聞いたら、ちょっと考える場面もあった。

高齢者のことが理解でき、自分の思いを表現することができたのではないかな。

Ⅶ 研究の成果と今後の課題

地域の高齢者との交流を通して、高齢者や友達のよさにふれる活動の支援の工夫と、関わりの中で得た自分の思いを表現できる支援の工夫を、総合的な学習の時間の中で試みた。成果と今後の課題として、次の点を挙げることができる。

1 成果

- (1) 耳の遠いおじいさんには、大きな声で話し、遊具づくりがだんだん上手になっていくおばあさんには、「おばあちゃん、上手だね。」と声かけする場面がみられ、他者を思いやる心やいたわりの心が育った。また、友達が優しく高齢者に声かけしたり、手助けしている場面を見て、お互いがクラスの友達の良さに気づいていった。
- (2) 他教科との関連を図った進め方は、児童の意欲を高めるのに効果的であった。
- (3) 児童の表情を見ていると、普段の学校、授業と違う高齢者のもつ柔らかい雰囲気の流れ、お互いにリラックスした中で交流ができ、異年齢交流のよさが十分体験できた。

2 今後の課題

- (1) 児童、高齢者それぞれ活動に熱中、没頭していたので、時間が短かった。もっと時間の検討が必要である。
- (2) 児童の課題のつけさせ方を工夫する必要がある。
- (3) 児童がもつ課題や実現したいことをよく想定して、それが次にどの魅力へつながっていくか考えておくことが大切である。
- (4) 今回の体験活動をきっかけに、高齢者への気軽なあいさつや声かけを日常的に行い、福祉への関心を持たせたい。

3 終わりに

6ヶ月間の研修は、とても有意義なものでした。研修における成果と課題を大切に、今後の教育実践の糧として役立てていきたいと思えます。最後に研修を進めるにあたって、御指導、ご助言を賜った中頭教育事務所主任指導主事の宮城茂雄先生、宜野湾市教育委員会の先生方、中曽根昌一先生をはじめ運営委員の先生方、宜野湾市教育研究所所長長浜勝廣先生、山城正春先生、職員の皆様、そして、研修の機会を与えて下さった宜野湾小学校校長知念かねみ先生・職員に感謝を申し上げます。

〈主な参考文献・資料〉

有園 格・小島 宏 編著	『小学校の総合的な学習4』	ぎょうせい	1999年
有園 格・小島 宏 編著	『国際理解、福祉・健康の展開3』	ぎょうせい	1999年
児島 邦宏・羽豆 成二 編書	『総合的な学習の時間』	明治図書	1999年
中野 重人 編著	『総合的な学習の時間のつくりかた』	東洋館出版社	1998年
京都教育大学付属桃山小学校	『豊かな人間関係を培う学習』	明治図書	1998年